

注3

大学番号：196

[平成29年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

立命館大学 情報理工学部 情報理工学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人立命館
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 ジムチョウ 事務長 サクマ アキラ 晃

電話番号 077-561-5202

（夜間） 077-561-5202

F A X 077-561-5203

e-mail a-sakuma@st.ritsumeit.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
- 例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))
- 表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
- 例)
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
 - ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
 - ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
 - ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
 - ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学部

<情報理工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	21
6. 留意事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	38

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人立命館

(2) 大学名 立命館大学

(3) 大学の位置

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1丁目1番1号

(〒604-8520 京都府京都市中京区西ノ京東栞尾町8番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ナガタ トヨオミ) 長田 豊臣 (平成19年2月)		
学長	(ヨシダ ミキオ) 吉田 美喜夫 (平成27年1月)		
学部長	(ナカタニ ヨシオ) 仲谷 善雄 (平成26年4月)		
副学部長	(シマダ ノブタカ) 島田 伸敬 (平成29年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
情報理工学部 情報理工学科 学士(工学)	工学関係	4年	475人	3年次人 40人	1,980人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	475人 () []	(40) () []	475人 () []	(40) () []	475人 () []	(40) () []	475人 () []	(40) () []	1.08倍	
志願者数	4891 () [53]	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []		
受験者数	4854 () [53]	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []		
合格者数	1944 () [53]	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []		
B 入学者数	513 () [53]	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []		
入学定員超過率 B/A	1.08									

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には、編入学の状況について**外数**で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	513 [53] (-)	[-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	
計	513 [53] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成29年度 入学者	513 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	— 人	— 人		
			平成31年度	— 人	— 人		
			平成32年度	— 人	— 人		
平成30年度 入学者	— 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人		— %
			平成31年度	— 人	— 人		
			平成32年度	— 人	— 人		
平成31年度 入学者	— 人	0 人	平成31年度	— 人	— 人		— %
			平成32年度	— 人	— 人		
平成32年度 入学者	— 人	0 人	平成32年度	— 人	— 人		— %
合 計	513 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学部 情報理工学科>

(1) 授業科目表

科目区分	科目区分	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				備考		
					必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	基礎専門科目	数学科目	数学 1	1前	2								4 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
			数学 2	1後	2									4 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			数学 3	1前	2									4 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			数学 4	1後	2									4 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			数学演習 1	1前	1									9 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			数学演習 2	1後	1									9 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	基礎専門科目	基礎科学科目	化学 1	1前	2									兼1	
			化学 2	1後	2									2 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			物理 1	1前	2									3 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			物理 2	1後	2									2 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			生物科学 1	1前	2									3 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			生物科学 2	1後	2									3 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			Physics for Computer Science	1前	2			1							
			Physics for Computer Science - Exercises	1前	2			1							
	数理科目	情報理論	情報理論	1前	2			3		1					教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			確率・統計	1後	2			2							
			情報基礎数学	1後	2			2		1					
			フーリエ解析	2前	2			3							
			多変量解析	2前	2			2							
			離散数学	2後	2			1		1					
			数値解析	2後	2			3							
			Computing Mathematics	1前	2			1		1					所属学部との都合による担当者変更(29)
			Mathematical Foundations of Computer Science	1後	2			1		1					所属学部との都合による担当者変更(29)
			Introduction to Differential Equations	2前	2			1							
			Experimentation 1	1前	2			1		1					所属学部との都合による担当者変更(29)
			Experimentation 2	1後	2			1							
			Statistical Analysis, Simulation, and Modeling 1	2前	2			1							
			Statistical Analysis, Simulation, and Modeling 2	2後	2			1							
	Applied Informatics 1	3前	2			1									
	Applied Informatics 2	3後	2			1									
	共通専門科目	情報科目	情報理工基礎演習	1前	2			10		4					教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			情報倫理と情報技術	1前	2			10		3					教育課程の充実を図るために担当者増(29)
			計算機科学入門	1前	2			2							
論理回路/Boolean Algebra and Logic Design			1後	2			3		1					日英2言語開講 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
計算機構成論/Computer Architecture			2前	2			3							日英2言語開講	
コンピュータネットワーク/Computer Networks			2前	2			1		2					日英2言語開講	
ソフトウェア工学/Software Engineering			2前	2			1		1					日英2言語開講	
デジタル信号処理/Digital Signal Processing			2前	2			3							日英2言語開講	
オペレーティングシステム/Operating Systems			2後	2			3							日英2言語開講	
データベース/Databases			2後	2			3							日英2言語開講	
ネットワークセキュリティ/Computer Security			2後	2			2		2					日英2言語開講	
コンピュータグラフィックス/Computer Graphics			2後	2			3							日英2言語開講	
人工知能/Artificial Intelligence			2後	2			1		2					日英2言語開講	
Introduction to Information Systems Engineering			1前	2			1								
Professional Ethics	1前	2			1										
グローバル科目	グローバル科目	Information Science in Action	2前	2			1								
		Presentation Plus 401	2後	2					1						
		Writing for Publication 402	3前	2					1						
講義特殊	講義特殊	特殊講義(共通専門)	1・2・3前後	2			1						兼2 教育課程の充実を図るために担当者増(29)		
固有専門科目	システム・アーキテクトコース	プログラミング演習 1/Programming Practice 1	1後	2			4		4			2	日英2言語開講 教育課程の充実を図るために担当者増(29)		
		プログラミング演習 2/Programming Practice 2	2前	2			5		2				日英2言語開講		
		システムアーキテクトプログラミング演習	2後	2			1								
		システムアーキテクト演習	1後	2			1		1					教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
		システムアーキテクト実験 1	2前	2			2							オムニバス	
		システムアーキテクト実験 2	2後	2			2							オムニバス	
		システムアーキテクト実験 3	3前	2			2							オムニバス	

専 門 科 目	固 有 専 門 科 目	先 端 社 会 デ ザ イ ン コ ー ス	自然言語処理	2前	2	1	1					オムニバス		
			Web情報技術概論	2後	2		1							オムニバス
			実世界情報処理	2後	2	2								
ヒューマンインタフェース	2後	2	1	1										
			音声音響情報処理 1	2後	2	2						オムニバス		
			情報アクセス論	3前	2	1								
			データマイニング基礎	3前	2	1								
			認知工学	3前	2	1								
			ユビキタスコンピューティング	3前	2	1								
			機械学習	3前	2	1								
			Webコンピューティング	3後	2	1								
			社会デザイン論	3後	2		1							
			知識工学	3後	2	1								
			センシング工学	3後	2	1								
		実 世 界 情 報 コ ー ス	プログラミング演習 1/Programming Practice 1	1後	2		4	4		2		日英2言語開講 教育課程の充実を図るために担当者増(29)		
			プログラミング演習 2/Programming Practice 2	2前	2		5	2				日英2言語開講		
			実世界情報実験 1	2前	2		2					オムニバス		
			実世界情報実験 2	2後	2		2					オムニバス		
			実世界情報実験 3	3前	2		3					オムニバス		
			実世界情報演習 1	1後		2	2							
			実世界情報演習 2	2後		2	1							
			実世界情報演習 3	3前		2	1							
			卒業研究 1/Graduation Research 1	3後	2		38	8				日英2言語開講		
			卒業研究 2/Graduation Research 2	4前	2		38	8				日英2言語開講		
			卒業研究 3/Graduation Research 3	4後	2		38	8				日英2言語開講		
			プログラミング言語/Programming Language	1後		2	6	4	3			日英2言語開講 教育課程の充実を図るために担当者増(29)		
			電気電子回路	1後		2	1	2	1			所属学部との都合による担当者変更(29)		
			データ構造とアルゴリズム/Data Structures and Algorithms	2前		2	4	2				日英2言語開講		
			オブジェクト指向論	2前		2	2							
			画像情報処理 1	2前		2	3					オムニバス		
			機械工学概論	2前		2	1							
			センシング工学	2後		2	1							
			実世界情報処理	2後		2	2					オムニバス		
			インタラクションデザイン論	2後		2	2					オムニバス		
			ロボティクス	2後		2	2					オムニバス		
		ユビキタスコンピューティング	3前		2	1								
		機械学習	3前		2	1								
		生体計測工学	3前		2	1								
		システム制御工学	3前		2	1								
		心理物理学	3後		2	1								
		コンピュータグラフィックス応用	3後		2	1								
		パターン認識	3後		2	1								
		音声音響情報処理 1	3後		2	2					オムニバス			
		最適化数学	4前		2			1						
		画 像 ・ 音 メ デ ィ ア コ ー ス	プログラミング演習 1/Programming Practice 1	1後	2		4	4		2		日英2言語開講 教育課程の充実を図るために担当者増(29)		
			プログラミング演習 2/Programming Practice 2	2前	2		5	2				日英2言語開講		
			メディア実験 1	2後	2		2					オムニバス		
			メディア実験 2	3前	2		2					オムニバス		
			メディア計算機演習	1後		2	1				2	教育課程の充実を図るために担当者増(29)		
			メディアプロジェクト演習 1	2後		2	2							
			メディアプロジェクト演習 2	3前		2	1							
			卒業研究 1/Graduation Research 1	3後	2		38	8				日英2言語開講		
			卒業研究 2/Graduation Research 2	4前	2		38	8				日英2言語開講		
			卒業研究 3/Graduation Research 3	4後	2		38	8				日英2言語開講		
			プログラミング言語/Programming Language	1後		2	6	4	3			日英2言語開講 教育課程の充実を図るために担当者増(29)		
			電気電子回路	1後		2	1	2	1			所属学部との都合による担当者変更(29)		
			データ構造とアルゴリズム/Data Structures and Algorithms	2前		2	4	2				日英2言語開講		
			メディア基礎数学	2前		2	2					オムニバス		
			画像情報処理 1	2前		2	3					オムニバス		
			画像情報処理 2	3前		2	3					オムニバス		
			音声音響情報処理 1	2後		2	2					オムニバス		
		音声音響情報処理 2	3前		2	2					オムニバス			
		オブジェクト指向論	3前		2	2								
		自然言語処理	3前		2	1	1							
		情報アクセス論	3前		2	1								
		最適化数学	3前		2		1							
		色彩工学	3前		2	1								

専 門 科 目	固 有 専 門 科 目	画像・音メディアアコース	コンピュータグラフィックス応用	3後	2	1						オムニバス	
			パターン認識	3後	2	1							
			Web情報技術概論	3後	2	1	1						
			実世界情報処理	3後	2	2							
			ヒューマンインタフェース	3後	2	1	1						
	知 能 情 報 コ ー ス		プログラミング演習1/Programming Practice 1	1後	2	4	4	3	2			日英2言語開講 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
			プログラミング演習2/Programming Practice 2	2前	2	5	2					日英2言語開講	
			知能情報学実験	2後	2	2							
			知能情報システム創成	3前	2		2						
			知能情報基礎演習	1後	2	3	1					教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
			知能情報処理演習	2前	2	2							
			卒業研究1/Graduation Research 1	3後	2	38	8					日英2言語開講	
			卒業研究2/Graduation Research 2	4前	2	38	8					日英2言語開講	
			卒業研究3/Graduation Research 3	4後	2	38	8					日英2言語開講	
			プログラミング言語/Programming Language	1後	2	6	4	3				日英2言語開講 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
			電気電子回路	1後	2	1	2	1				所属学部への都合による担当者変更(29)	
			データ構造とアルゴリズム/Data Structures and Algorithms	2前	2	4	2					日英2言語開講	
			画像情報処理1	2前	2	3						オムニバス	
			機械工学概論	2前	2	1							
			生体生理工学	2前	2	1							
			シミュレーション工学	2後	2	1							
			センシング工学	2後	2	1							
			ロボティクス	2後	2	2						オムニバス	
			音声音響情報処理1	2後	2	2						オムニバス	
			音声音響情報処理2	3前	2	2						オムニバス	
		最適化数学	3前	2		1							
		機械学習	3前	2	1								
		色彩工学	3前	2	1								
		システム制御工学	3前	2	1								
		自然言語処理	3前	2	1	1							
		心理物理学	3後	2	1								
		脳機能情報処理	3後	2		1							
		感性工学	3後	2	1								
		パターン認識	3後	2	1								
		ヒューマンインタフェース	3後	2	1	1							
	情 報 シ ス テ ム グ ロ ー バ ル コ ー ス		プログラミング演習1/Programming Practice 1	1後	2	4	4	3	2			日英2言語開講 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
			プログラミング演習2/Programming Practice 2	2前	2	5	2					日英2言語開講	
			Imperative Programming	2後	2	1							
			PBL: Problem Analysis and Modeling	1前	4	7	2	3	1			教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
			PBL: Team-based Design	1後	4	7	2	1				教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
			PBL: Creative Design	2前	4	1	1						
			PBL: Team-based Creative Design	2後	4	1							
			PBL: Design Evolution	3前	4	2							
			卒業研究1/Graduation Research 1	3後	2	38	8						
			卒業研究2/Graduation Research 2	4前	2	38	8						
			卒業研究3/Graduation Research 3	4後	2	38	8						
			Introduction to Programming	1前	2	4		1				所属学部への都合による担当者変更(29)	
			Introduction to OOA, OOD, and UML	1前	2	1							
			プログラミング言語/Programming Language	1後	2	6	4	3				日英2言語開講 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
			データ構造とアルゴリズム/Data Structures and Algorithms	2前	2	4	2					日英2言語開講	
			Network Systems	2後	2		1						
		Human Interface	2後	2	1								
		Distributed Systems	3前	2	1								
		Web Information Engineering	3前	2	1								
		Visualization and Computer Art	3前	2	1								
		Image Processing	3前	2	1								
		Ergonomics and Affective Engineering	3前	2	1								
		Embedded Systems	3後	2	1								
		Pattern Recognition and Machine Learning	3後	2	1								
		Data Science	3後	2	1								
		Advanced Computer Graphics	3後	2	1								
		Numerical Algorithms	3後	2	1								
	情 報 シ ス テ ム グ ロ ー バ ル コ ー ス		情報と職業	1後	2							兼1	
			日本語表現技術	1前後	2							兼1	
			連携講座	1・2後	2	3	1					教育課程の充実を図るために担当者増(29)	

専門科目	グローバル・キャリア養成科目	グローバルIT研修プログラム (QUT)	1後	4	1	↓			※講義 所属学部との都合による担当者変更(29)
		グローバルIT研修プログラム (DJU)	1後	2	1				※講義
		グローバルIT研修プログラム (UW)	2後	4		1			※講義
		グローバルIT研修プログラム (SCIT)	3後	4	1				※講義
		グローバルIT研修プログラム (NEU)	3後	2	1				※講義
		グローバルインターンシップ	2後	2		1			※講義
	MOTプログラム	情報技術実践1	2通	2	1				
		情報技術実践2	2後	2	1				
		情報技術実践3	3通	2	1				
		技術経営概論	2前	2					兼1
講義	技術経営特論	2前	2					兼1	
	イノベーション論	2後	2					兼1	
	ファイナンス入門	2後	2					兼1	
	ITを活用した業務改革入門	3後	2					兼1、隔年	
特殊講義 (グローバル・キャリア養成)	1・2・3前後	2	1				兼1、隔年		
外国語科目	英語入門 091	1前	1	1				兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	英語入門 092	1前	1	↓				兼2 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	英語初級 101	1前後	1	1	+	1		兼2 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	英語初級 102	1前後	1		+			兼3 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	英語初級 103	1・2前後	1	↓	1			兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	英語初級 104	1・2前後	1	↓				兼2 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	英語中級 105	1・2前後	1	1	1			兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	英語中級 106	1・2前後	1	↓	2	1		兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	英語中級 107	1・2・3前後	1	1	1			兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	英語中級 108	1・2・3前後	1	↓	2			兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	英語上級 109	1・2・3前後	1		↓			兼1 所属学部との都合による担当者変更(29)	
	英語上級 110	1・2・3前後	1	↓				兼1 所属学部との都合による担当者変更(29)	
	Professional Communication 301	1・2・3・4前後	2		↓			兼1 所属学部との都合による担当者変更(29)	
	Professional Communication 303	2・3・4前後	2			1			
	Academic Literacy 302	1・2・3・4前後	2			1			
	Academic Literacy 304	2・3・4前後	2			1			
	日本語Ⅶ (文章表現a)	1前	1	1				4 留学生対象 兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	日本語Ⅶ (文章表現b)	1後	1	1				4 留学生対象 兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	日本語Ⅶ (読解a)	1前	1					5 留学生対象 兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	日本語Ⅶ (読解b)	1後	1					5 留学生対象 兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	日本語Ⅶ (聴解口頭a)	1前	1					5 留学生対象 兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	日本語Ⅶ (聴解口頭b)	1後	1					6 留学生対象 兼1 教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
	日本語Ⅶ (アカデミック日本語a)	2前	1	1				留学生対象	
	日本語Ⅶ (アカデミック日本語b)	2後	1	1				留学生対象	
	日本語Ⅶ (キャリア日本語a)	2前	1	1				留学生対象	
	日本語Ⅶ (キャリア日本語b)	2後	1	1				留学生対象	
教養科目	日本国憲法	1・2・3・4前	2					兼1	
	哲学と人間	1・2・3・4前後	2					兼1	
	論理と思考	1・2・3・4前	2					兼1	
	経済と社会	1・2・3・4前後	2					兼1	
	科学・技術と社会	1・2・3・4後	2					兼1	
	宗教と社会	3・4後	2					兼1	
	心理学入門	1・2・3・4前後	2					兼1	
	現代の国際関係と日本	1・2・3・4前	2					兼1	
	メディアと現代文化	1・2・3・4前	2					兼1	
	科学と技術の歴史	1・2・3・4前	2					兼1	
	メンタルヘルス	3・4前後	2					兼1	
	宇宙科学	1・2・3・4前	2					兼1	
	科学技術と倫理	1・2・3・4前	2					兼1	
	社会学入門	1・2・3・4前	2					兼1	
	現代社会と法	1・2・3・4後	2					兼1	
	企業と社会	1・2・3・4前後	2					兼1	
	現代の世界経済	1・2・3・4前後	2					2 教育課程の充実を図るために担当者増(29) 兼1	
	災害と安全	1・2・3・4後	2					兼1	
	新しい日本史像	1・2・3・4前	2					兼1	

教養科目	中国の国家と社会	1・2・3・4前	2						兼1	
	アメリカの歴史	1・2・3・4前	2						兼1	
	平和学入門	1・2・3・4後	2						3 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	日本の近現代と立命館	1・2後	2						10 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	「英語とアメリカ文化」プログラム	1・2・3後	2						兼1	留学プログラムの再編による科目の廃止(29)
	異文化理解セミナー (海外留学プログラム)	1・2・3・4前後	2						兼1	
	文化・社会調査 (海外留学プログラム)	1・2・3・4前	2						兼1	
	日豪関係Ⅱ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後	1						兼1	
	日豪関係Ⅲ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後	1						兼1	
	日豪関係Ⅳ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後	1						兼1	
	言語・文化・社会CⅠ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後	3						兼1	留学プログラムの再編による新規科目の追加(29)
	言語・文化・社会CⅡ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後	3						兼1	留学プログラムの再編による新規科目の追加(29)
	言語・文化・社会CⅢ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後	3						兼1	留学プログラムの再編による新規科目の追加(29)
	言語・文化・社会CⅣ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後	5						兼1	留学プログラムの再編による新規科目の追加(29)
	言語・文化・社会DⅠ (海外留学プログラム)	2・3・4後	2						兼1	留学プログラムの再編による新規科目の追加(29)
	言語・文化・社会DⅡ (海外留学プログラム)	2・3・4後	2						兼1	留学プログラムの再編による新規科目の追加(29)
	言語・文化・社会DⅢ (海外留学プログラム)	2・3・4後	4						兼1	留学プログラムの再編による新規科目の追加(29)
	言語・文化・社会DⅣ (海外留学プログラム)	2・3・4後	4						兼1	留学プログラムの再編による新規科目の追加(29)
	言語・文化・社会DⅤ (海外留学プログラム)	2・3・4後	4						兼1	留学プログラムの再編による新規科目の追加(29)
	Global Fieldwork Project	1・2・3・4後	2						兼1	留学プログラムの再編による新規科目の追加(29)
	シテズンシップ・スタディーズⅠ	1・2・3・4通	2						2 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	シテズンシップ・スタディーズⅡ	2・3・4前	2						兼1	
	ソーシャル・コラボレーション演習	2・3・4後	2						兼1	
	コーオプ演習	3・4後	2						2 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	地域参加学習入門	1・2・3・4前	2						2 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	現代社会のフィールドワーク	1・2・3・4後	2						兼1	
	学びとキャリア	1・2・3・4前	2						兼1	
	仕事とキャリア	2・3・4前	2						兼1	
	コーオプ教育概論	3・4前	2						兼1	
	社会とキャリア	3・4後	2						兼1	
	全学インターンシップ	2・3・4後	2						4 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	スポーツのサイエンス	1・2・3・4後	2						兼1	
	スポーツと現代社会	1・2・3・4前	2						兼1	
	現代人とヘルスケア	1・2・3・4後	2						兼1	
	スポーツ方法実習Ⅰ	1・2・3・4前	1						16 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	スポーツ方法実習Ⅱ	1・2・3・4後	1						12 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	教養ゼミナール	1・2・3・4前	2						25 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	ピア・サポート論	2・3・4後	2						5 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	国際平和交流セミナー	1・2・3・4休	2						3 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	特殊講義 (国の行政組織)	1・2前	2						兼1	
	特殊講義 (総合)	1・2・3・4前後	2						15 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	Theme Study	1・2・3・4前	2						14 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	Introduction to Law	1・2・3・4前	2						兼1	
	Modern World History	1・2・3・4前	2						兼1	
	Introduction to Politics	1・2・3・4前	2						兼1	
	Cross-cultural Encounters	1・2・3・4前	2						兼1	
	Japan and the West	1・2・3・4前	2						兼1	
Introduction to Economics	1・2・3・4前	2						2 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
Kyoto and the Japanese Arts	1・2・3・4前	2						兼1		
Basic Communication Skills	1・2・3・4前	2						兼1		
Introduction to Sociology	1・2・3・4前	2						兼1		
Introduction to Geography	1・2・3・4前	2						兼1		
Special Lecture	1・2・3・4前	2						3 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)	
Introduction to Linguistics	1・2・3・4前	2						兼1		
Advanced Seminar	1・2・3・4前	2						兼1		
Basic Academic Skills	1・2・3・4前	2						兼1		
Intermediate Academic Skills	1・2・3・4前	2						兼1		
Intermediate Seminar	1・2・3・4前	2						兼1		
Global Engineer Program	1・2・3前	2						兼1		
University of Hawaii Program Hawaii University Program	2・3前	2						兼1	申請時科目記載間違いの修正(29)	
Asian Community Leadership Seminar	2・3・4前	2						兼1		
Introduction to Anthropology	1・2・3・4前	2						兼1		
Introduction to Natural Science	1・2・3・4前	2						2 兼1	教育課程の充実を図るために担当者増(29)	

教養科目	Peace Museum Seminar	1・2・3・4 後	2						兼1
	Introduction to Computational Linguistics	1・2・3・4 前	2	1					
	History of Computing	1・2・3・4 前	2	4		1			所属学部との都合による担当者変更(29)
	Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	1・2・3・4 前	2	1					
	Understanding Language	1・2・3・4 前	2	2 +					教育課程の充実を図るために担当者増(29)
	Computers in Education	1・2・3・4 前	2		1				
	Language in Politics	1・2・3・4 前	2		1				
	Non-verbal Communication	1・2・3・4 前	2	1					
	(留) 日本の社会・政治	1・2・3・4 前	2						兼1
	(留) 日本の文化・地理・歴史	1・2・3・4 前	2						兼1
	(留) 日本の経済・経営	1・2・3・4 後	2						兼1
	(留) 日本の自然・科学技術	1・2・3・4 後	2						兼1
	(留) 日本語学	2・3・4後	2						兼1
異文化間テーマ演習	1・2・3・4 前	2						兼1	
自由科目	特殊講義(大学アスリート)アスリートのためのアカデミックスキルズ	1期		2					兼+ 全学アスリート学生対象科目の再編による科目の廃止(29)

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
57	327	1	385	57	336	0	393	
				[]	[9]	[Δ1]	[8]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし	-	-	-	-	-

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	特殊講義(大学アスリート) アスリートのためのアカデミック・スキルズ	2	1前	一般	自由	全学アスリート学生対象科目の再編による科目廃止
2	「英語とアメリカ文化」プログラム	2	1・2・3後	一般	選択	留学プログラムの再編による科目の廃止

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

全学プログラムの再編等に伴って授業科目を廃止した。学修要覧等へ掲載しないことで対応し、特段の影響はなかった。
--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{385} = \boxed{0.51} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	衣笠キャンパス隣接地 156.26㎡増 (29)			
	校舎敷地	920,840.79㎡	0㎡	0㎡	920,840.79㎡				
	運動場用地	93,310.74㎡	0㎡	0㎡	93,310.74㎡				
	小 計	1,014,151.53㎡	0㎡	0㎡	1,014,151.53㎡				
	そ の 他	389,742.12㎡ 389,585.86㎡	0㎡	0㎡	389,742.12㎡ 389,585.86㎡				
合 計	1,403,893.65㎡ 1,403,737.39㎡	0㎡	0㎡	1,403,893.65㎡ 1,403,737.39㎡					
(2) 校舎	専 用	527,355.61㎡ 534,329.59㎡	0㎡	0㎡	527,355.61㎡ 534,329.59㎡	図書館解体、トイレ解体 6,987.86㎡減 倉庫 13.88㎡増 (29)			
	(534,329.05㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(534,329.05㎡)					
(3) 教室等	講義室	128室 122室	演習室	528室 515室	実験実習室	796室 768室	大学全体 明学館、洋洋館、学術館、コアII、コアIIIの改修工事に伴い講義室、演習室、実験実習室の増、情報処理学習施設の減 (29) 職員： 従事職員数の変更によるもの。(29)		
					情報処理学習施設	39室 41室 補助職員 5人 (補助職員 10人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数			大学全体		
	情報理工学部 情報理工学科			70 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 図書の増加分は新規購入による。雑誌・電子ジャーナルの増加分は契約タイトル数の変更による。視聴覚資料の減少分は除籍による。(29)	
	情報理工学部 情報理工学科	81,795 [27,443] (80,272 [27,194])	1,820 [1,485] (1,681 [1,163])	1,385 [1,372] (1,295 [1,051])	142 (143)	— (—)	— (—)		
	計	81,795 [27,443] (80,272 [27,194])	1,820 [1,485] (1,681 [1,163])	1,385 [1,372] (1,295 [1,051])	142 (143)	— (—)	— (—)		
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体 図書館移転にともなう変更。(29)		
	44,148.91㎡		5,441席 5,443席		4,574,000冊 4,459,000冊				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体 スポーツ健康コンス* 4,579.01㎡増 (29)	
	27,540.62㎡ 22,961.61㎡		柵野室内練習場		鉄骨造鋼板葺平屋建2,025㎡				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は理工学研究所の経費を記載している。図書購入費には、電子ジャーナル、データベース等を含む。
		教員1人当り研究費等	1,952千円	1,977千円	図書購入費	0千円	13,749千円	50,881千円	
	共同研究費等	6,898千円	7,002千円	設備購入費	0千円	21,370千円	79,188千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 1,685千円	第2年次 1,545千円	第3年次 1,545千円	第4年次 1,545千円	第5年次 —千円	第6年次 —千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、寄付金収入及び補助金収入等により維持する。							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8) 経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	立命館大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
法学部 法学科	4	790	—	3,160	学士 (法学)	1.10	昭和23年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
経済学部 経済学科 国際経済学科	4 4	795 —	— —	2,400 —	学士 (経済学) 学士 (経済学)	1.10 1.09 —	昭和23年度 平成18年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成29年度より学生募集停止(経済学部国際経済学科)
経営学部 経営学科 国際経営学科	4 4	675 150	— —	2,505 600	学士 (経営学) 学士 (経営学)	1.09 1.08 1.13	昭和37年度 平成18年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	平成29年度入学定員増(65人)(経営学部経営学科)
産業社会学部 現代社会学科 現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 人間福祉専攻 子ども社会専攻	4 4 4	900 840 60	— — —	3,600 3,360 240	学士 (社会学) 学士 (社会学) 学士 (社会学)	1.05 1.05 1.14	平成19年度 平成19年度 平成19年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
文学部 人文学科	4	980	—	4,095	学士 (文学)	1.06	平成16年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	平成28年度入学定員減(△200人)(文学部人文学科) 平成29年度入学定員増(75人)(文学部人文学科)
理工学部 電気電子工学科 機械工学科 都市システム工学科 環境システム工学科 電子光情報工学科 ロボティクス学科	4 4 4 4 4 4	154 173 91 75 — 90	3年次12 3年次10 3年次2 3年次2 — 3年次6	604 673 347 286 — 351	学士 (工学) 学士 (工学) 学士 (工学) 学士 (工学) 学士 (工学) 学士 (工学)	1.07 1.11 1.05 1.08 1.07 — 1.12	昭和24年度 昭和24年度 平成16年度 平成6年度 平成8年度 平成8年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成29年度入学定員増(12人)(理工学部電気電子工学科) 平成29年度入学定員増(13人)(理工学部機械工学科) 平成29年度入学定員増(7人)(理工学部都市システム工学科) 平成29年度入学定員増(6人)(理工学部環境システム工学科) 平成24年度より学生募集停止(理工学部電子光情報工学科) 平成29年度入学定員増(7人)(理工学部ロボティクス学科)

数理科学科	4	97	—	367	学士 (理学)	0.99	平成 12年度		平成29年度入学定員 増(7人)(理工学 部数理科学科)
物理科学科	4	86	—	326	学士 (理学)	1.03	平成 12年度		平成29年度入学定員 増(6人)(理工学 部物理科学科)
電子情報工学科	4	102	3年次 8	400	学士 (工学)	1.04	平成 16年度	滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	平成29年度入学定員 増(8人)(理工学 部電子情報工学科)
マイクロ機械システム工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		平成24年度より学生 募集停止(理工学部 マイクロ機械システム工 学科)
建築都市デザイン学科	4	91	3年次 16	333	学士 (工学)	1.12	平成 16年度		平成29年度入学定員 増(21人)(理工学 部建築都市デザイン学 科)
国際関係学部									
国際関係学科	4	335	—	1,250	学士(国際関 係学)	0.94	昭和 63年度	京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	平成29年度入学定員 増(30人)(国際関 係学部国際関係学 科)
政策科学部									
政策科学科	4	410	—	1,490	学士(政策科 学)	0.97	平成 6年度	大阪府茨木市岩倉 町2番150号	平成29年度入学定員 増(50人)(政策科 学部政策科学科)
情報理工学部									
情報理工学科	4	475	—	475	学士 (工学)	1.05 1.08	平成 29年度		平成29年度より学生 募集停止(3年次編 入学定員は平成31年 度より学生募集停 止)(情報理工学部 情報理工学科)
情報システム学科	4	—	3年次 10	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		平成29年度より学生 募集停止(3年次編 入学定員は平成31年 度より学生募集停 止)(情報理工学部 情報システム学科)
情報コミュニケーション学科	4	—	3年次 10	—	学士 (工学)	—	平成 16年度	滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	平成29年度より学生 募集停止(3年次編 入学定員は平成31年 度より学生募集停 止)(情報理工学部 情報コミュニケーション学 科)
メディア情報学科	4	—	3年次 10	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		平成29年度より学生 募集停止(3年次編 入学定員は平成31年 度より学生募集停 止)(情報理工学部 メディア情報学科)
知能情報学科	4	—	3年次 10	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		平成29年度より学生 募集停止(3年次編 入学定員は平成31年 度より学生募集停 止)(情報理工学部 知能情報学科)
映像学部									
映像学科	4	160	—	610	学士 (映像学)	1.06	平成 19年度	京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	平成29年度入学定員 増(10人)(映像学 部映像学科)
薬学部									
薬学科	6	100	—	600	学士 (薬学)	1.07	平成 20年度	滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	6年制学科 4年制学科
創薬科学科	4	60	—	180	学士 (薬科学)	0.94	平成 27年度		

生命科学部						1.04			
応用化学科	4	111	—	351	学士（理学） 学士（工学）	1.09	平成 20年度	滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	平成29年度入学定員 増（31人）（生命科 学部応用化学科）
生物工学科	4	86	—	326	学士 （工学）	1.00	平成 20年度		平成29年度入学定員 増（6人）（生命科 学部生物工学科）
生命情報学科	4	64	—	244	学士（理学） 学士（工学）	1.01	平成 20年度		平成29年度入学定員 増（4人）（生命科 学部生命情報学科）
生命医科学科	4	64	—	244	学士 （理学）	1.03	平成 20年度		平成29年度入学定員 増（4人）（生命科 学部生命医科学科）
スポーツ健康科学部									
スポーツ健康科学科	4	235	—	895	学士（スポーツ 健康科学）	1.06	平成 22年度	滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	平成29年度入学定員 増（15人）（スポー ツ健康科学部スポー ツ健康科学科）
総合心理学部									
総合心理学科	4	280	—	560	学士（心理 学）	1.10	平成 28年度	大阪府茨木市岩倉 町2番150号	
法学研究科									
法学専攻								京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士 （法学）	0.15	昭和 25年度		
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士 （法学）	0.23	昭和 28年度		
経済学研究科									
経済学専攻								滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	
博士課程前期課程	2	50	—	100	修士 （経済学）	0.53	昭和 25年度		
博士課程後期課程	3	5	—	15	博士 （経済学）	0.60	昭和 39年度		
経営学研究科									
企業経営専攻								大阪府茨木市岩倉 町2番150号	
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士 （経営学）	0.51	昭和 41年度		
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 （経営学）	0.13	昭和 41年度		
社会学研究科									
応用社会学専攻								京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士 （社会学）	0.46	昭和 47年度		
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 （社会学）	0.64	昭和 49年度		
文学研究科									
人文学専攻								京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	
博士課程前期課程	2	70	—	140	修士 （文学）	0.59	平成 18年度		
博士課程後期課程	3	20	—	60	博士 （文学）	0.83	平成 18年度		

行動文化情報学専攻									
博士課程前期課程	2	35	—	70	修士 (文学)	0.62	平成 26年度	京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 (文学)	0.26	平成 26年度		
理工学研究科									
基礎理工学専攻									
博士課程前期課程		50	—	100	修士(理学) 修士(工学)	0.69	平成 18年度	滋賀県草津市野路 東1丁目1番1号	
博士課程後期課程		6	—	18	博士(理学) 博士(工学)	0.83	平成 24年度		
電子システム専攻									
博士課程前期課程		180	—	360	修士 (工学)	0.60	平成 24年度		
博士課程後期課程		8	—	24	博士 (工学)	0.29	平成 24年度		
機械システム専攻									
博士課程前期課程		140	—	280	修士 (工学)	0.72	平成 24年度		
博士課程後期課程		11	—	33	博士 (工学)	0.42	平成 24年度		
環境都市専攻									
博士課程前期課程		80	—	160	修士 (工学)	1.00	平成 24年度		
博士課程後期課程		15	—	45	博士 (工学)	0.28	平成 24年度		
総合理工学専攻									
博士課程後期課程		—	—	—	博士(理学) 博士(工学)	—	平成 8年度	平成24年度より学生 募集停止(理工学研究 科総合理工学専攻 博士課程後期課程)	
国際関係研究科									
国際関係学専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士(国際関 係学)	0.53	平成 4年度	京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士(国際関 係学)	0.53	平成 6年度		
政策科学研究科									
政策科学専攻									
博士課程前期課程	2	40	—	80	修士(政策科 学)	0.63	平成 9年度	大阪府茨木市岩倉 町2番150号	
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士(政策科 学)	0.46	平成 11年度		
応用人間科学研究科									
応用人間科学専攻									
修士課程	2	60	—	120	修士(人間科 学)	0.60	平成 13年度	京都府京都市北区 等持院北町56番地 の1	

言語教育情報研究科 言語教育情報専攻 修士課程	2	60	—	120	修士（言語教育情報学）	0.75	平成15年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
テクノロジーマネジメント研究科 テクノロジーマネジメント専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	70 5	— —	140 15	修士（技術経営） 博士（技術経営）	0.33 1.06	平成17年度 平成18年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
公務研究科 公共政策専攻 修士課程	2	60	—	120	修士（公共政策）	0.34	平成19年度	京都府京都市中京区西ノ京東柵尾町8番地	
スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	25 8	— —	50 24	修士（スポーツ健康科学） 博士（スポーツ健康科学）	0.58 1.33	平成22年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
映像研究科 映像専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（映像）	0.50	平成23年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
情報理工学研究科 情報理工学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	200 15	— —	400 45	修士（工学） 博士（工学）	0.69 0.51	平成24年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
生命科学研究科 生命科学専攻 博士課程前期課程 博士課程後期課程	2 3	150 15	— —	300 45	修士（理学） 修士（工学） 博士（理学） 博士（工学）	0.80 0.48	平成24年度 平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
先端総合学術研究科 先端総合学術専攻 一貫制博士課程	5	30	—	150	博士（学術）	0.20	平成15年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
薬学研究科 薬学専攻 博士課程	4	3	—	12	博士（薬学）	1.07	平成26年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	

法務研究科 法曹養成専攻 専門職学位課程	3	70	—	240	法務博士 (専門職)	0.36	平成 16年度	京都府京都市中京 区西ノ京東柵尾町 8番地	平成28年度入学定員 減(△30人)(法務 研究科法曹養成専攻 専門職学位課程)
経営管理研究科 経営管理専攻 専門職学位課程	2	80	—	160	経営修士 (専門職)	0.55	平成 18年度	大阪府茨木市岩倉 町2番150号	
教職研究科 実践教育専攻 専門職学位課程	2	35	—	35	教職修士 (専門職)	0.91	平成 29年度	京都府京都市中京 区西ノ京東柵尾町 8番地	
大学の名称	立命館アジア太平洋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
アジア太平洋学部 アジア太平洋学科	4	660	2年次 12 3年次 18	2,532	学士 (アジア太平 洋学)	1.00	平成 12年度	大分県別府市十文 字原1丁目1番	平成29年度入学定員 増(60人)(アジア 太平洋学部アジア太 平洋学科)
国際経営学部 国際経営学科	4	660	2年次 22 3年次 31	2,588	学士 (経営学)	0.92	平成 12年度		平成29年度入学定員 増(60人)(国際経 営学部国際経営学 科)
アジア太平洋研究科 アジア太平洋学専攻 博士課程前期課程	2	15	—	30	修士(アジア 太平洋学)	0.60	平成 15年度		
博士課程後期課程 国際協力政策専攻 博士課程前期課程	3 2	10 45	—	30 90	博士(アジア 太平洋学) 修士(国際協 力政策)	0.56 0.36	平成 15年度 平成 15年度		
経営管理研究科 修士課程	2	40	—	80	修士 (経営管理)	0.51	平成 15年度		

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (28年4月)	該当なし	—	—	—

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<情報理工学部 情報理工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	—

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学では、学部・研究科に共通する教学に関わる事項について審議を行うための全学的機関として、教学委員会を設置している。教学委員会は、教学部長が主宰し、各学部・研究科の副学部長・副研究科長が出席し、毎年度の各学部・研究科の教学上の総括および次年度計画を策定・承認している。ここでは、FD活動についても毎年度の方針に基づく総括、次年度計画をまとめている。本学では、FD活動を「建学の精神と教学理念を踏まえ、学部・研究科・教学機関が掲げる理念と教育目標を実現するために、カリキュラムや個々の授業についての配置・内容・方法・教材・評価等の適切性に関して教員が職員と協働し、学生の参画を得て、組織的な研究・研修を推進するとともに、それらの取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、さらなる改善に活かしていく活動」と定義している。教育の質的向上のために、各学部・研究科においてFD活動を行うとともに、教学部が主催して教学実践フォーラムや懇談会等を実施し取組を共有している。 2. 全学的には教育開発推進機構(以下「機構」という。)を設置し(「立命館大学教育開発推進機構規程」第2条)、その下に教育・学修支援センター(以下「センター」という)を置いて、学部・研究科の取組みを支援している(同第4条)。 <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教学委員会は隔週月曜日に実施し、全学部・研究科の副学部長・副研究科長が出席している。(教学委員会規程) 2. 機構は、日常的運営を行うため、教育・学修支援センター会議(「センター会議」)を置いている(立命館大学教育開発推進機構規程第10条、第12条)。 構成員は、教育・学修支援センター長(委員長)、教育・学修支援センター副センター長(副センター長)、教学部副部長(事務局長)、一貫教育部副部長、一貫教育部教育研究・研修センター長、機構所属教員(嘱託講師を除く)、教学部次長、機構長が任命する教職員(以上委員)である。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教学委員会(教学委員会規程第2条) <ol style="list-style-type: none"> (1) 教学の基本方針に関する事項(カリキュラム改革、毎年度の開講方針および教学総括等) (2) 学部と研究科に共通する教学および教務事項 等 2. センター会議(立命館大学教育開発推進機構規程第11条) <ol style="list-style-type: none"> (1) 機構およびセンターの活動方針および総括に関する事項 (2) センターが行う事業の基本方針に関する事項 等 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教学実践フォーラムの開催 2. FD懇談会の開催 3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施 4. 授業アンケートの実施、分析、授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施 5. 学びと成長調査の実施、分析を通じた学生実態把握と教育上の課題の共有 6. 『ITL (Institute for Teaching and Learning) News』、紀要『立命館高等教育研究』を通じた実践・授業研究等の共有 7. 教学総括・計画概要の策定、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立
--

b 実施方法

1. 教学実践フォーラムの開催
 - ・国内外のFDの事例報告、学生の学びの実態調査結果分析、ICT活用事例等の紹介
2. FD懇談会の開催
 - (1) 各学部・研究科・機構のFDに関する取り組みの共有
 - (2) FDに関する国内外の実践の紹介
 - (3) FDに関する要望・意見等の集約を内容にした懇談会
3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施
 - ・教育歴が3年未満の新任教員を対象として、研修会、ガイダンス、オンデマンド講義、ワークショップ、コンサルテーション等を2年間（最長4年間）実施
4. 授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施
 - ・個別授業の授業改善、組織的な教学改善、学生への説明責任を目的として、大学全体で統一した書式により授業アンケートを実施。Webコースツールのアンケート機能も活用する。各授業の中盤にWebコースツールや「コミュニケーション・ペーパー」「インタラクティブシート」等を活用した授業改善に向けた意見交換を実施（希望する教員）
5. 学びと成長調査の実施、分析を通じた学生実態把握と教育上の課題の共有
 - ・学生の学びと成長調査（アンケート）設計、実施、分析と教学委員会への報告
6. 『ITL (Institute for Teaching and Learning) News』を通じた実践の共有および紀要『立命館高等教育研究』の発行を通じた実践レポートや授業研究の共有
7. 教学総括・次年度計画概要、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立
 - ・「教学総括」や「自己点検・評価報告書」作成の支援

c 開催状況（教員の参加状況含む）

<平成28年度実績>

1. 教学実践フォーラムの開催
 - ・4回開催、のべ約150名参加
2. FD懇談会の開催
 - ・2回開催（副学部長懇談会として実施）
3. 教員対象の「実践的FDプログラム」の実施
 - ・13名が修了（内7名が優秀修了者）。修了式には、学長、学部長を含め約20名が参加
4. 授業改善に関わる担当者や受講生間の意見交換の実施
 - ・授業アンケートは毎セメスター、全授業で実施。アンケート回収率は、講義系24.9%、外国語52.6%、小集団32.8%（前期）、講義系24.9%、外国語52.6%、小集団32.8%（後期）。
5. 学びと成長調査の実施
 - ・2016年度より全学生を対象に毎年度調査を実施している。
6. 『ITL (Institute for Teaching and Learning) News』を2回発行し、紀要『立命館高等教育研究』を1回発行。
7. 教学総括・次年度計画概要の作成、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立
 - ・教学総括・次年度計画概要は平成28年度最終の教学委員会にて承認、自己点検・評価報告書はその文書をもとに平成29年度に作成予定である。
 - ・各学部、研究科の要望に応じて教育開発推進機構教員が専門的知見を活かして支援を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. 教学実践フォーラムをつうじて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用
2. 先進的な教育実践と学部・研究科固有の組織的なFD活動との連携を促進
3. 教員に期待する教育力量の向上および教育活動の促進
4. アンケート結果の分析をもとに学部での授業改善、教育改善の取組に反映
5. 実施結果の分析による教育内容の改善
6. 教育を取り巻く動向や課題、実践事例の共有と普及、教育に関する理論や実践の研究と成果の発信
7. 毎年度の開講方針に基づく点検・評価、次年度に向けた改善課題の明確化、自己点検・評価活動をつうじた教育内容や方法の改善促進

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・毎年度、各セメスター終盤に実施（授業アンケート）
- ・各セメスターの5～6週目（Webコースツール、「インタラクティブシート」等によるアンケート）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・各授業および分野等で分析し、①各教員には個別分析結果を返却、②学生には結果全体の報告書をホームページに掲載すると同時に各学部・研究科事務室等の窓口で閲覧できるようにしている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

情報理工学部は、平成16(2004)年4月、情報科学技術に関する新しい展開に対応した教育・研究を推進するため、理学における基礎理論と工学におけるシステム化の方法論を基礎としつつ従来の学問の枠を超えた新しい総合的な学問体系を構築するものとして設置された。学部設置以来10年以上を経過し、急速に発展し続ける情報科学技術分野はさらなる高度化および多様化に加え、旧来分野の融合によって新たな分野が創造されるなど、目まぐるしく変化している。この動きに機動的に対応するため、平成29(2017)年4月に旧来の4学科制から1学科7コース制に改組した。これにより設置された情報理工学部情報理工学科は、情報科学を基礎とした多様な分野の教育研究を通じて、グローバルモメンタムと独創性を持ち、革新的に社会の課題を解決していく人材を育成することを目的として、以下の取り組みを行った。

1. 入学生確保

本学部設置の認可を受けて、学部紹介パンフレット作成、ホームページ作成、附属校懇談会、高校生向け説明会、オープンキャンパスや入試説明会への参加、新聞・雑誌などからの取材受け入れ、高校訪問、さらに海外の高校等へ積極的広報と現地説明会などの活動を展開し、学部の教学内容とアドミッションポリシーの浸透を行った。入学定員475名に対して4,721名の一般入試志願者と275名の特別入試志願者(推薦、A0、留学生入試など)を集め、入学者数は513名であった。合格者に対する入学手続き者率が例年になく高率となり本学部に対する受験者の志望順位の高さが反映されたと考える。一方で内訳として英語による履修が原則である情報システムグローバルコースを専修選択する入学者が定員より低い16人となったことを受け、次年度入試については早い時期から海外を始めとして当該コースの広報、説明会を始めている。また入試志願者数を維持・向上を目指し高い志望順位が維持できるよう広報活動を充実させると共に、学部の教学内容・アドミッションポリシーと合致する入学者を確保するための質の高い広報を工夫する。

2. 新入生オリエンテーション

新入生に対して4月に授業開始前のオリエンテーションを実施し、学部教育の基本的理念と仕組み、人材育成目的、学部教育の特色などを入念に説明した。加えて、学生生活全般と大学生として自覚、履修方法などについてガイダンスを行った。個別に相談を必要とする学生のために、2回にわたって履修・留学相談会を実施してきめの細かいケアを行い、200名近くの参加を得た。

3. 初年次教育

1回生配当科目として、「計算機科学入門」「情報倫理と情報技術」など、基礎的な専門知識やリテラシーを得る科目を配置し、学部の教育体系を理解するとともに、企業人講師による「連携講座」を配置して、卒業後の職業観を早期にイメージさせる。1回生配当の「情報理工学基礎演習」では、プログラミングの初歩を体験したりグループワークを通じて情報理工学と関連分野における調査発表を行うことで、情報収集のやり方、プレゼンテーションやドキュメンテーション技法などの大学での学び方を身につけさせる。また各コースによる系統的な学びの内容を課外ガイダンスおよびコース紹介イベントを実施して、1年時後期のコース配属に向け、学生自身が情報理工学分野の何を重点的に学ぶかを意識させる。

4. 1学科コース制の導入

(1) 情報分野の急速な広がりに対応できる柔軟な教育組織の設置

情報分野の広がり現代社会が関わる同分野における課題に鑑み、学生は以下の7コースのいずれかを履修する。

- ・システムアーキテクトコース
- ・セキュリティ・ネットワークコース
- ・先端社会デザインコース
- ・実世界情報コース
- ・画像・音メディアコース
- ・知能情報コース
- ・Information Systems Science and Engineering Course(情報システムグローバルコース)

(2) グローバルな環境で実践的に問題解決を行える人材育成カリキュラムの提供

学部全体として「グローバルな環境で実践的に問題解決を行える人材育成カリキュラムの提供」を行うべく、多様に展開されるコースの中に英語で学位が取得できるコースを設置した。この「Information Systems Science and Engineering Course(情報システムグローバルコース)」は、国際学生と日本人学生が共に学ぶ環境を実現するために要卒の授業はすべて英語で開講される。

(3) 理論に裏付けられた高い専門力を統一的に提供する教学カリキュラムの提供

1年次前期を初年次教育に位置づけ、そのためすべてのコースにおいて基礎となる数理科目(情報理論、情報基礎数学など)、共通専門科目(計算機科学入門、情報倫理と情報技術など)を精選拡充して提供する。1年次後期からコース配属を行い、コースごとの特色ある系統履修カリキュラムをツリーおよびマップで可視化した上で提供する。

5. 英語教育

一般学術目的のための英語(EGAP)から情報科学分野における高い英語コミュニケーション能力への移行を目的とした新しい英語カリキュラムを導入した。この新しい英語カリキュラムでは全ての英語科目が統一の能力記述文体系上に位置づけられており、入学時英語学力に応じた科目パッケージの履修を通して着実な英語運用能力習得を支援する。新入生オリエンテーションの一環として実施された英語ブレイクテストの結果、日本語基準コースの日本人学生456名中、183名が英語中級科目から履修を開始することとなり、その内67名が上位層に位置づけられた。一方、英語初級科目からの履修開始となるのは131名、英語入門科目からの履修開始となるのは142名であった。入学時英語学力中上位層は2回生後期までに英語による研究スキル習得を、低学力層は3回生前期末までに少なくとも中級程度以上のEGAP運用能力習得を目標としている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・「2017年度自己点検・評価報告書」を平成29年12月に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開（平成29年12月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成30年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審予定

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（4）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

（ 有 無 ）

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

（ 平成29年 7月 29日 ）